

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 23人 |
| ② 算数 | 23人 |
| ③ 理科 | 23人 |

5 留意事項

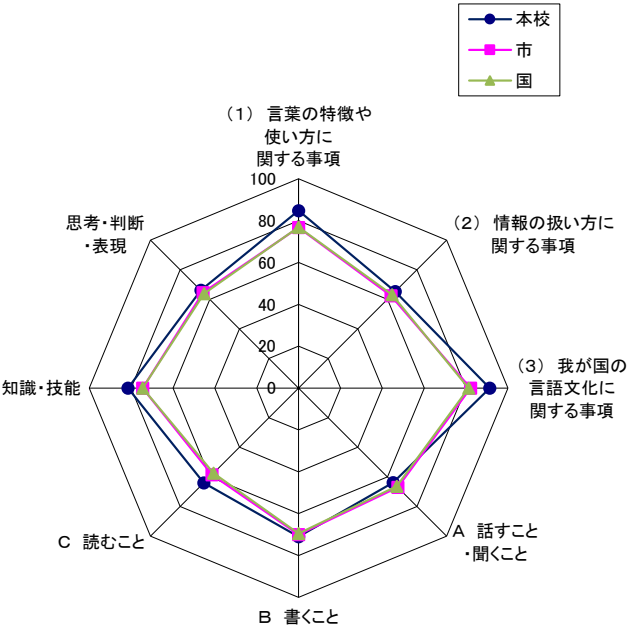
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	84.8	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	65.2	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	91.3	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	63.8	67.0	66.3
	B 書くこと	71.0	70.0	69.5
	C 読むこと	64.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	81.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	66.1	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

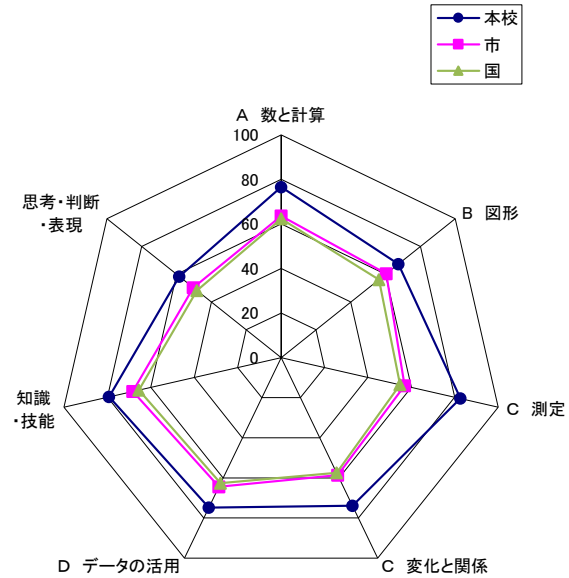
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも8.1ポイント高い。 ○漢字を文の中で正しく使うことについても身に付いてきている。	・漢字ドリルやA1ドリルを活用して、該当学年の漢字の学習に取り組んでいくとともに、既習の漢字の定着を図るために、適宜10問テスト等で確認するようにする。 ・他教科の学習においても、既習の漢字を文の中で活用する習慣を付けていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも2.8ポイント高い。 ○文章を書く際のメモについて、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、どのように書き表されているかを説明することがよくできている。	・今後も、文章を書く際の情報の集め方や整理の仕方の指導過程を大切に、情報と関連付けながら文章の構成を考えられるよう、丁寧に指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも9.2ポイント高い。 ○資料から、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができている。	・今後も教材文や本をじっくりと読む時間を確保しつつ、その楽しさやよさを味わわせていく。 ・語彙の拡充を図るために、国語辞典や漢字辞典を用い、言葉について調べ、まとめる活動を充実させていく。
A 話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも3.2ポイント低い。 ○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることはよくできている。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることについては、課題が見られる。	・各教科における話し合い活動を通して、話し手の伝えたいことや話の中心を捉えながら聞き、相手の思いや意図を汲み取りながら話す力を育んでいく。 ・校外学習などでのインタビューだけではなく他教科にわたり、また、日常生活内でも必要に応じてメモを活用することに慣れさせ、経験を積んでいけるようにする。
B 書くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも1.0ポイント高い。 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題が見られる。 ●書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることについても、課題が見られる。	・テーマや情報の活用の仕方、文字数などの条件に合わせて書く機会を増やし、目的意識や相手意識をもって書く経験を積ませるようにする。 ・100文字日記やスタンダードダイアリーを活用した日記指導など、日頃から書く習慣をつけ、書くことに対する抵抗感を減らすことができるように努めていく。
C 読むこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも5.5ポイント高い。 ○時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容を捉えることがよくできている。 ●文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られる。	・物語文の叙述からどのように考えたかななどの理由を示して、自分の考えをまとめる活動を設定し、書く力の育成を図っていく。 ・説明文の文章構成から、各段落における要旨をまとめる活動を多く取り入れ、文章中の重要な語句に着目しながら読む力の育成を図っていく。 ・文型や物語中の言葉、文の取り上げ方などを提示し、書くことに抵抗感のある児童も安心して取り組めるようにする。

宇都宮市立西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	76.6	63.6	62.3
	B 図形	67.4	60.4	56.2
	C 測定	82.6	56.9	54.8
	C 変化と関係	73.9	58.6	57.5
	D データの活用	74.8	64.4	62.6
観点	知識・技能	79.2	68.3	65.5
	思考・判断・表現	58.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

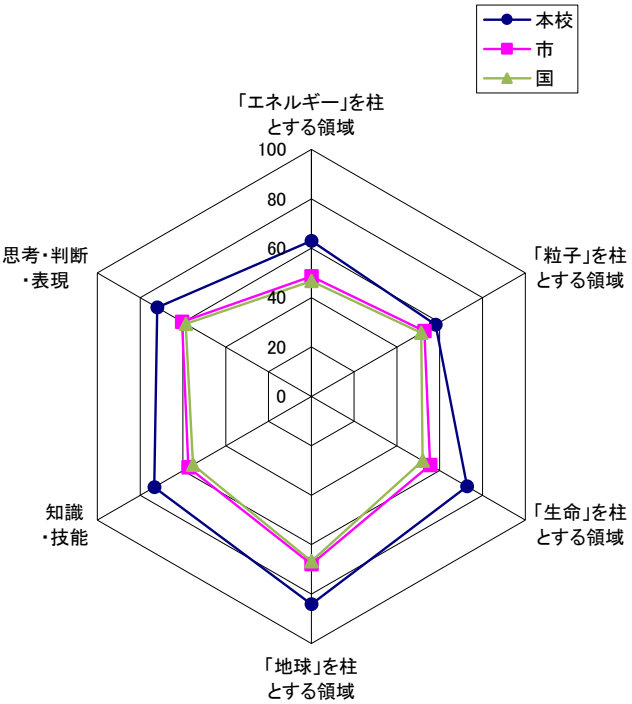
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	本校の平均正答率は、市の平均よりも13.0ポイント高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方や式を言葉を用いて記述することができている。 ○数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができている。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、基本的な計算の定着に向け、計算ドリルやAIドリルを活用していくとともに、習熟度別学習や少人数指導を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・計算の仕方を話し合ったり、説明したりする活動を通して、筋道を立てて考える力を育成していくとともに、思考したことを図や文字言語で表現する活動を充実させていく。
B 図形	本校の平均正答率は、市の平均よりも7.0ポイント高い。 ○角の大きさや、コンパスを用いて平行四辺形を作図する際の手順をよく理解できている。 ○五角形の面積を求めるために、五角形を二つの図形に分割し、それぞれの面積の求め方を式や言葉で書くことができている。	・図形を作図したり分割したりするなど、具体物を操作する体験的な活動を積極的に取り入れ、図形の性質や構成要素の理解を更に深められるようにする。 ・複数の図形を関連付けて、性質や特徴について共通点を見いだしたり、類推したりする活動を通して、考察したことを式や言葉で説明する力の育成を図っていく。
C 測定	本校の平均正答率は、市の平均よりも25.7ポイント高い。 ○はかりが示された場面で、はかりの目盛りを正しく読むことができている。	・引き続き、「長さ」「広さ」「体積」「質量」それぞれにおいて、はかりやリットルます、巻き尺等を実際に使い、直接比較や任意単位による測定を着実にに行いながら、量の概念を確実に理解させていきたい。 ・単位の換算については、数多くの問題に触れさせることで、問題に慣れさせ、感覚的に回答できるように指導していく。
C 変化と関係	本校の平均正答率は、市の平均よりも15.3ポイント高い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことがよくできている。問題を解決するために必要な数量を捉え、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉で書くことができている。	・日常生活を想起させながら問題を捉え、どんな場面かを想像しやすくすることで、数量についての理解を深められるようにする。 ・「10%増量」「増量後の量」「増量前の量」「何倍」といった言葉に注目し、いま問われていることは何かを的確に把握する力を伸ばしていくとともに、数直線等に表しながら、より正確に答えを求めることができるようにじっくりと考え、その考えを他者と共有する活動を充実させていく。
D データの活用	本校の平均正答率は、市の平均よりも10.4ポイント高い。 ○棒グラフや二次元表から条件に合った項目を選ぶことができている。	・引き続き、データ活用の基本となる数値の読み取りを丁寧に扱い、正確に読み取れるようにする。 ・問題で求められていることや目的に応じて、条件に合う数値を取捨選択して読み取り、考察に生かすことができるよう、他教科においても、資料の読み取りと考察の機会を積極的に取り入れるようにしていく。

宇都宮市立西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	63.0	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	58.0	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	72.8	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	84.1	67.9	66.7
観点	知識・技能	73.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	72.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均よりも14.4ポイント高い。 ○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることについてよく理解できている。 ○乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。 ○電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができている。 ●アルミニウム、鉄などの身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかを正しく選ぶことができた児童の割合は、8.7%で課題が見られる。	・予め巻かれたものではなく、自ら実際にコイルを巻いて実験を行ったことで、体験的理解として電磁石の知識定着につながった。 ・引き続き、実験の意図や条件設定をしっかりと把握した上で、予想を立て、実験をし、考察をするようにする。 ・金属の性質については、特にアルミニウムと鉄の性質が混同するため、実験後も、Aドリル等で既習事項の確認を行っていく。
「粒子」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均よりも5.2ポイント高い。 ○水の蒸発や結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解できている。 ○水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができている。 ○水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができている。	・水の変化は、現象として捉えにくい内容であるため、量や見た目の変化が分かりやすく、現象を捉えやすい具体的方法を示し、質的、実体的見方を動かせることができるよう支援していく。 ・実験結果の考察の際には、予想や仮説と結果を結び付けて考え、科学的な言葉を用いながら図や文で表すことができるように支援し、それぞれが導き出した考察について話し合い、科学的な考えが深まるようにする。
「生命」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均よりも17.3ポイント高い。 ○ヘチマの花のつくりや受粉についてよく理解できている。 ○レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができている。	・引き続き、発芽実験や植物の器官の観察を確実に行っていき、そこで顕微鏡の扱い方も着実に習得させていく。 ・学習活動で、実物や模型、映像資料、図鑑等の様々な資料を活用することで実感が伴う理解をさせると共に、いろいろな事象に当てはめて考えることができるようにする。
「地球」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均よりも16.2ポイント高い。 ○氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて考えることができています。 ○赤玉土の粒の大きさによる水の染み込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができている。	・氷、水を扱う実験においても、実験の意図や条件設定をしっかりと把握した上で、予想を立て、実験をし、考察をするようにしていくことで、正しい知識が定着していくようにする。 ・水の状態変化をより理解させるために、アイスクリームが解ける、洗濯物が乾く、窓ガラスに水滴がつくなどの身近な現象と結び付けて考える活動を充実させていく。

宇都宮市立西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「学校に行くのは楽しい」と回答した児童の割合は91.7%で、県の平均を3.6ポイント上回っている。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した児童の割合は95.8%、「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合は87.5%であった。児童は前向きで、日常の幸せを感じる豊かな心をもって生活を送っていると考えられる。また、学級活動や委員会活動、クラブ活動などで様々な教員が温かい声掛けをしていることが自己肯定感の向上につながっていると考えられる。

○「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童の割合は100%で、県の平均を4.9ポイント上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合は95.8%、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童の割合は83.3%であった。自分の能力を自分以外の誰かのために発揮したいという意欲の表れであると考えられる。

○「PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる」と回答した児童の割合は91.7%で、県の平均を10.8ポイント上回っている。また、「PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる」と回答した児童の割合は83.3%で、県の平均を13.2ポイント上回っている。これは、中学年からタイピング練習だけではなく、各教科において必要に応じて学んだことを「スクールタクト」にて文章入力したり、「Canva」でまとめたりしてきたことの成果であると考えられる。

●「PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる」と回答した児童の割合は70.9%で、県の平均を7.3ポイント下回っている。今までも総合的な学習の時間において、複数人でプレゼンテーションスライドを作成した経験はあるが、自分一人の力でとなると自信を持つことができない児童がいると考えられる。国語の「話す・聞く」単元や、外国語の「話す(発表・スピーチ)」の場面で簡単なスライドを作成していくことで、次第に自分一人でも作成することができるように支援していきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童の割合は95.8%で、県の平均を8.3ポイント上回っている。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童の割合は91.7%であった。授業中に話合いの時間を十分に確保したり、学級活動で学級の課題の解決や様々な企画について話し合ってきたことで、話合いの重要さの理解につながっていると考えられる。

●「国語の勉強は得意」と回答した児童の割合は50%、「国語の勉強は好き」と回答した児童の割合は45.9%で県の平均を大きく下回っている。しかし、「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合は87.5%、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は100%であった。このことから国語が好きではない児童も、将来のことを思い、今現在頑張って授業を受けていると考えられる。児童が興味・関心・意欲をもって取り組めるような授業づくりをし、国語嫌いの克服を目指していくことが大切である。

○「算数の勉強は得意」と回答した児童の割合は62.5%、「算数の勉強は好き」と回答した児童の割合は62.5%、「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合は79.2%で、それぞれに県の平均をやや上回っている。「算数の問題の解き方が分からないときには、あきらめずにいろいろな方法を考えている」と回答した児童の割合は87.5%、「小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている」と回答した児童の割合は91.7%であった。このことから算数を学習する意義を児童が理解し、活動に意欲をもって取り組んでいることが分かる。

宇都宮市立西小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現のための思考力と表現力の育成	各教科における「書く活動」の充実。思考したものを文や文章、音声言語でいかに表現するか。その引き出しを増やすために、伝え合いや話合い活動だけではなく、1人1台端末やICT機器を活用した共有・交流の方法の検討及び実践。言語活動が充実するために必要な働きかけは何か、そのファシリテート力の向上に努めている。	「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている」と回答した児童の割合は95.8%、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合は83.3%である。 また、「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている」と回答した児童の割合は87.5%である。学習活動内で自分の考えを形成し、文章にまとめることは概ねできていると考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童の割合は79.2%、「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫することができている」と回答した児童の割合は75.0%であった。	話合い活動で自分と他者の意見を比較し、そこで思考したことを組み立て、事実と自分の考えを区別して書く活動の充実を図る。	各教科において、文章や資料、図表などから分かることを考えて話し合ったり、書いたりする活動を積極的に取り入れる。意見が二極化するテーマを扱い討論する活動や、単元内自由進度学習を段階的に取り入れていくことで、答えは必ずしも一つにはならないが、そこで得た知識に大きな価値があることや、自分で学びを調節しながら学習へと向かっていく楽しさや喜びを体感させていきたい。